

校内研修計画

甲州市立菱山小学校

1 学校課題

本校では、(ひ)「広い見方でよく考える」確かな学力の習得、(し)「しっかりとした体づくり」体力づくりの推進、(や)「やさしい心」情操豊かで自他を大切にする心の育成、(ま)「まじめに働く」勤労の精神の育成のため、教育課程の編成や日課表等の工夫を積極的に行いながら、学校教育目標に掲げた子ども像の達成を目指している。

本校の子どもは、明るく素直で、児童会活動・学校行事などの行事や体験的学習に一生懸命に取り組んでいる。また、全校児童が32名と小規模であるため、子どもたちの豊かな仲間意識を育むための異学年交流活動が盛んであり、休み時間や放課後に他学年の子を誘って遊んだり、高学年が低学年に優しく声を掛けたりする光景がよく見られる。

学習面では、今までの研究成果や少人数学級の利点を活かした個に目を向けた指導の充実等により、基礎的・基本的学力を着実に付けてきている。さらに、授業中の全員発言や話し合い活動の充実などの取り組みを通して、自分の考えを他者に伝えたり、他者の意見を聞き取ったりする意欲や力が増してきている。

しかし、少人数の限定的な集団の中では、論理的な言葉を介さなくても互いに理解しあえる側面もある。授業でも考えを論理的に伝えることができなくても、子どもたちの間では、何となく伝わり分かったような気になる場面や、自分の考えはしっかり持っていながらも、伝え方が分からずに途中で言葉に詰まってしまう場面が散見された。そのため、本校では自分の考えを表現する力の向上やコミュニケーション能力の育成が大きな課題となっている。

2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 ～思考力・表現力を高める算数的活動の工夫～

3 主題設定の理由

昨年度までの研究では、子どもたちが、基礎的知識・技能を習得し、社会集団の中で他者と関わり合いながら生活していくのに必要とされる表現力やコミュニケーション能力を活用して自分が直面した課題を解決するための思考・判断・表現ができるように、各教科における言語活動の充実、特に算数科に焦点をあてて研究を進めてきた。

授業実践の中では、学び合いの方法や思考力を高める指導の工夫に焦点をあてた授業づくりを行ってきた。多様な考え方や様々な解決法を見いだす活動を要求する学習過程を設定することで、子どもたちは様々な既習事項を組み合わせて答えを導き出したり、試行錯誤したりして新しい考え方を見つけるなど、自分が直面した課題を解決しようという意欲が出てきている。

また、自分の考えを説明したり、友だちの考えを認めたりする学び合い・話し合いの活発な活動を意図的に仕組むことで、自他の考えの相違点に気付いたり、互いの考えの良さを認めあったりすることもできるようになってきている。

昨年、実施された県の学力把握調査からは、自分の考えを図や表、数直線などを用いて表現したり、論理的に説明したり、文章化したりするなどの数学的表現力の個人差が大きいことが判明した。また、各学年が目標とする数学的表現力に十分達している学年もあるが、不十分な学年もあり、各学年を通じた包括的かつ体系的な指導をしていくことの必要性も明らかになっている。

子どもが表現している時は、常に思考を伴っている。思考し課題を解いてから表現することもある。また、表現と思考を同時に行っている場合もある。しかし、その思考がどのようなものであるかは、本人以外には分からない。自分の思考過程を図や表、言葉、文章で表現することで、さらに考える力を育て、考える楽しさを味わい、主体的に学習する児童の姿につながると考える。

今年度は、子どもたちが論理的に考えた結果を相手に伝えたり、図や表、数直線をもって自分の考えを表現したりといった算数的活動に対する指導の工夫と充実を図ることで、数学的思考力と表現力を高める手法を追求したい。

算数的活動の充実に関心をもち、発達段階に応じた表現の仕方を身につけ、自分の考えを図や表、言葉等で表現することを通じて思考を深める学習過程や活動を仕組み、さらなる表現力と思考力の向上をめざしたい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し、「NRT」「Q-U」調査を活用して学力向上とともに、互いを認め、高め合う学級集団づくりにも焦点をあててきたい。

4. 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・児童の実態を把握し、課題を明確化する。
- ・Q-U 検査・NRT 検査の実施と分析・活用の充実
- ・算数的活動の充実を図るための教材や課題設定、学習形態、発問の仕方等の工夫や改善。
- ・算数科における「表現力」「思考力」「算数的活動」の理論研究を行い、共通理解のもとで授業の構造化をすすめ、具体的指導法を探る。
- ・低学年・高学年ブロックによる研究活動の実践。授業研究による検証。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと随時連携しながら校内研究を進める。

(2) 研究方法

- ・低・高ブロックごとに指導法を研究し、それぞれ年1回の研究授業を行う。
- ・1人1実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持ち、授業改善につなげる。
- ・公開授業等に積極的に参加し、そこで得られた知見をフィードバックする。
- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの3つの柱の各担当者を中心に校内研究と連携する。

年間校内研修計画

研究主任 武井 麻子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	TC要請
「主体的に学習する児童の育成」 ～思考力・表現力を高める算数的活動の工夫～	・校内研の運営について（主題・内容） ・校内研の年間計画の決定 ・児童の実態把握(Q-U検査・NRT検査)	研究主任		4月	
	・低高ブロック研究 ・学力向上の取り組み ・K13法による児童の実態の分析	研究主任 各ブロック		5月	
	・テーマに関わる学習会（講師招聘） ・研究授業案検討	研究主任 授業者		6月	
	・授業研究会 ・低高ブロック研究	授業者 各ブロック	2学年	7月	○
	・特別支援学習会	特別支援コーディネーター		8月	○
	・教育課程研究（還流） ・実践授業研究	各担当 各担任		9月	
	・研究授業案検討 ・実践授業研究	研究主任 授業者		10月	
	・K13法による児童の実態の分析 ・授業研究会	研究主任 授業者	5学年	11月	○
	・低高ブロック研究（成果と課題）	各ブロック		12月	
	・校内研究全体の成果と課題 ・実践授業研究	研究主任 授業者		1月	
	・1人1実践のまとめ	各担当		2月	
	・次年度教育課程 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	

